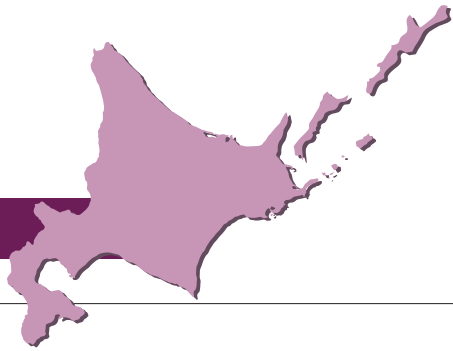
8月の道内景況　情報連絡員レポート

主要DIが前年同月の水準上回る

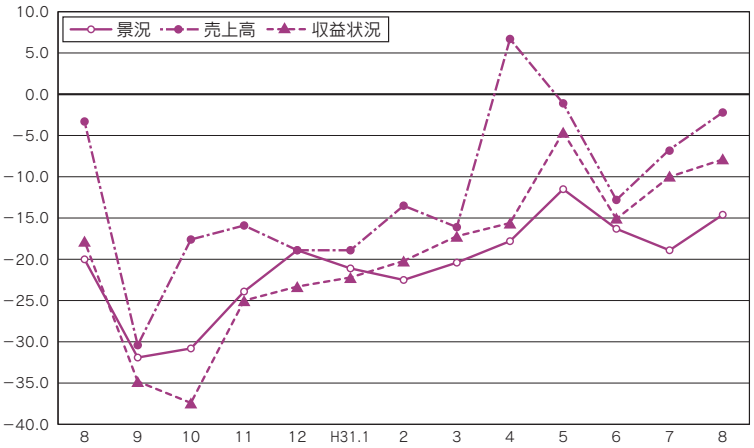


概　況

主要DIが、若干ではあるもの、そろって改善した。

業種別に見た各DIの前月比較では、製造業では「景況」「売上高」「収益状況」「資金繰り」で若干改善したが、「販売価格」「取引条件」で悪化した。非製造業では「資金繰り」「雇用人員」以外の全項目で若干改善したが、依然低い数値水準にとどまっている。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比
業界の景況	△18.9	△14.6	4.3 ↗	△33.3	△30.3	3.0 ↗	△10.5	△5.4	5.2 ↗
売　上　高	△6.7	△2.2	4.4 ↗	△9.1	△3.0	6.1 ↗	△5.3	△1.8	3.5 ↗
収 益 状 況	△10.0	△7.9	2.1 ↗	△15.2	△12.1	3.0 ↗	△7.0	△5.4	1.7 ↗
販 売 価 格	2.2	4.5	2.3 ↗	12.1	6.1	△6.1 ↘	△3.5	3.6	7.1 ↗
取 引 条 件	△1.1	△1.1	0.0 →	0.0	△6.1	△6.1 ↘	△1.8	1.8	3.5 ↗
資 金 繰 り	△5.6	△4.5	1.1 ↗	△12.1	△9.1	3.0 ↗	△1.8	△1.8	0.0 →
雇 用 人 員	△10.0	△11.2	△1.2 ↘	△3.0	△3.0	0.0 →	△14.0	△16.1	△2.0 ↘

（凡例）　30 以上　10 ～ 29　9 ～△ 10　△ 11 ～△ 29　△ 30 以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D･I）をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

・高値で安定していた原材料価格が再上昇を始めた。販売価格を引き上げたいが、消費増税を控え、様子を見ている。（水産食料品／全道）
・原料価格の高騰、ホタテ加工においては貝毒の影響もあり生産コスト上昇となっている。（廃棄する部分が増加している）（水産食料品／網走）
・暑い日が多かったので、冷たいものが多く売れ、温かいものは売れなかったので、全体の売上としては例年通り。（めん類／全道）
・原料の昆布の不漁により、仕入価格が上がっている。（水産食料品／函館）
・8月は数年来の暑さ続きで飲料に対する需要が伸び、売上が増加した。瓶、ダンボール等の値上げが浸透した。年末商品の商談が始まっているが、価格にどの程度転嫁できるかを中小企業各社が注目している。（飲料／全道）
・製材市況は前月と変わらずで、カラマツは、エゾ・トドマツは、保合。原木市況は、カラマツ、エゾ・トドマツは、保合。カラマツ原木は、まだまだ不足感がある模様。製材の受注は9月くらいまではある模様。ラミナの動きがやや出てきている模様。エゾ・トドマツ原木は、例年並みまで回復しているが、いまだに小径材は不足している模様。
・原木価格が高値であることから製品への転嫁が必要であるが、受注にかげりがある企業も出てきている模様。（一般製材／全道）
・製材受注量が減少傾向にある。原因は米中の貿易問題や為替の円高傾向と思われる。（一般製材／札幌）
・8月の生コン出荷量は305千m^3で、前月比は15.7％減、前年同月比は0.2％減となった。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・自動車、建設機械は普通。鋳鋼品は悪い。水道資材はやや良い。農業機械・一般鋳物はやや悪い。米中貿易摩擦の影響により景気の減速感が見える。工場労働者の求人は少ない。（銑鉄鋳物／全道）
・組合員の動向
後継者がいなく廃業する事業所が2社出るなど、組合員の減少が続いている。
組合員の取組状況
他産業との人材確保競争が激化する中で、優秀な人材が造船業を選択し定着してもらうためには、雇用条件の見直しを行っている。造船業は職種が多岐にわたり、女性にも適した仕事もあるため、労働環境雇用環境を改善して女性の雇用で人材確保している事業所も見られる。（金属製品／函館）
・消費税増税前の動きはあまりないようだが、建設工事関連では忙しいところもある。（金属機械工作／札幌）
・業種によっては長期にわたって人員を募集しても、応募が全くないところがあり、先行きに不安を感じている企業が複数見られる。そんな中、就職してもらえる可能性を期待して、地元工業高校のインターンシップ制度を積極的に受入れようという企業も見受けられる。（金属機械工作／札幌）
・民需は相変わらず低調。本州大手企業より北海道の拠点工場として新規に受注契約あり。（金属機械工作／旭川）
・消費増税を控え、多少駆け込み需要があったものと推測される。増税後の反動が気になるが、この反動を受け政府の対策としてキャッシュレス・消費者還元事業やいい意味でも悪い意味でも、増税の告知が少ないことが5％から8％への増税時に起きた消費の冷えが起きないことを望んでいる。（家具／旭川）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・取扱品目にかかわらず売上は増加し、収益も改善傾向との回答が多い。IT関連では消費税アップ前の駆け込み需要が出ている。靴履物ではスニーカー、スポーツカジュアルが引き続き順調。物流の効率化を図るため関東に倉庫を集約したが北海道への物流コストが高くなっており、新たに道内に拠点を作る動きが出ている。（各種商品／札幌）
・3年前（2016年）の8月下旬に十勝などを襲った台風、1年前（2018年）の北海道胆振東部地震にブラックアウトと自然災害の多いこのシーズン、各組合員ともその対策は構築されつつあるようだ。組合事務局としても、SNSなどを活用しながら的確な情報発信や備品倉庫に発電機や水・非常食の常備も進めている。（各種商品／帯広）
・8月前半にかけて暑かったため、エアコン設備機器の販売が良好であった。（電気資材／全道）
・10月1日から開始されるキャッシュレス・消費者還元事業への問合せがクレジット会員から増えてきている。増税前の駆け込み需要はそれほど感じられない。（各種商品／札幌）
・消費税増税前の駆け込み需要からか、家電量販店の売上が好調で、前年より増加した。キャッシングにおいては、前年より減少し、収益では取引経済条件の低減により悪化している。（各種商品／旭川）
・8月も客足は好調だった。夏だけ運航される早朝（午前5：30頃）小樽着のフェリーからの観光客は朝食・買い物のため当市場を利用する。このフェリーのおかげで「朝市」としての機能を発揮している。残念だったのは、石狩市での「ライジングサン」が一日中止になり、食材購入客が減少したこと。隣町でのコンサートなのに影響があるとは思わなかった。（各種商品／小樽）
・8月の各組合員の状況について
天候不順の影響も受けた前月と比べてみて、さらに厳しい状況が続いたとの声の組合員が多く、特に衣料品関係の組合員からの声が多かった。各組合員、9月はキャッシュレス還元、消費増税など課題を抱えているが、増税前の駆け込み需要に期待しているとの声も多かった。（各種商品／釧路）
・ニューヨーク市場のWTI価格は8月1日53.95ドルで先月7月のスタートから見て5.1ドルの反落でスタートした。これはトランプ大統領の中国製品に対し10％の制裁関税を課すとの発表が影響したもので、7月31日の58.59ドルから急落した。その後主要産油国の減産幅の拡大の議論が出るなどで反落反発を繰り返し8月30日にはWTI原油価格が54.55ドルとなっている。
・組合員情勢
8月卸値は若干の値下がりで推移、小売店の販売価格も下方修正されて推移したものの収支状況では従来と同じく量販店の安値攻勢により一部厳しい利益口銭の圧縮にて推移している。（燃料小売業／旭川）
・7月の売上好転がピタリと止まってしまったようだ。前回の消費税増税時には駆け込み需要で電動自転車の売れ行きが伸びたが、今回はまだ動きないようだ。（自転車・自動車／全道）
・9月6日より㈱ホーマックニコットが入店し、活気が戻ってきた。また、地元鮮魚店ハイフイッシュみなしんの入店、当理事長立ち上げの青果店㈱ハイベジタブルタカタの出店が同時オープンした。白鳥台住民の皆様に喜んで頂けるよう努力したい。（各種食料品／室蘭）
・売上高対前年同月比95.1％の実績。固定客の売上減（中国向け輸出の減少）が大きく影響した。（野菜・果実／札幌）
・増税前の関係か、小売が少々良好とのこと。（中古自動車／札幌）
・北海道内に拠点を持つIT企業は約900社あり、そのうちの約55％がシステム受託開発会社で、従業員規模50人以下の中小IT企業がそのうちの約65％を占めている。全国規模の大手システム開発7社を経由して、開発案件が道内の中小IT企業に発注されているケースが多い。首都圏を中心とした大手企業は人手不足対策を生産性向上で乗り切るためや、事業拡大の機会損失をIT技術でカバーするために、IT投資が幅広い業種で積極的に進められている。目立つのは、製造業の生産性改善を目的にしたAIによる省力化、自動車向けの車載組み込みソフトの開発、金融のキャッシュレス決済システムの開発、次世代通信規格「5G」関連のネットワークシステムの構築等で、これらのシステム開発の拡大基調は今後も続く可能性が高い。道内の中小IT企業は人手不足・人材不足、人件費上昇という経営課題を抱えながらも、単金の上昇や女性・シニア層を活用しながら案件を受け入れて右肩上がりの業績確保を期待する経営者が多い。（ソフトウェア／全道）
・インバウンド減少傾向が続いている（旅館／音更）

非製造業（建設・運輸業）

・8月の業況は、工事組合において電力関連工事で新電力移行に伴う計測器取替工事（スイッチング）は先月同様、前年度に比較して3割程度の減少。一般電気工事は、相変わらず労働力が不足しており、これから繁忙期の折に電工の確保が受注より難しい状況であり重要な課題。引き続き公共はやや好調、民間住宅は昨年より減少している。（電気工事／全道）
・問題点
公共事業においては後半の発注見通しが示されておらず、市の情報発信力が弱いと感じている。
地域の実情
今月は神社祭やお盆が続き、休暇を長めに取る業者が多かったようで、社員は充分休養できた。8月に入り、好天に恵まれた日が多く、稲作は順調に生育し作況は良好。ただし、公共事業は財政難のためか上下水、土木、建築いずれも事業が縮小傾向にある。（管工事／名寄）
・消費増税の料金改定を控えていて組合員の中にもインボイス制度施行後についてさまざまな声が出始めている。左派系の業界新聞には「増税とインボイス制度」で収入減となるなどの記事が掲載されてるようだが、組合員に対して偏らない情報を提供したいと考えている。（一般貨物自動車運送／全道）
・荷動きについて、青果物は、7月に引き続き産地によって出荷量のバラつきが出ている。馬鈴薯・玉葱の出来は昨年より良いが、市況が悪化しているため荷動きは低調である。一般カーゴに関しては、前月に引き続き良くない。鉄骨・部材関係も落ち込んでいる。本州からの到着貨物も減少傾向にある。域内輸送は、ユニック貨物はまずまずの状況にある。飲料関係は猛暑が収まった途端に低調に逆戻りしている。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比1.2％減少、乗務員数は前年同月比6.8％減少、7月分チケット取扱高は前年同月比6.4％増加。（一般乗用旅客／旭川）
・ダンプ業者は災害復旧工事に伴う需要増で、運賃や取引条件が好転しているが、業界全体では活況とまでは至らない。（一般乗用旅客／苫小牧）